

# 幼児の思いを捉え、学びの芽生えを 育む保育の在り方

—チーム保育の充実と効率的な情報共有の実践から—

令和3・4年度幼児教育研究推進校  
茨城県ひたちなか市立佐野幼稚園



# 佐野幼稚園の紹介(令和4年度)

- ★園児数 年長児 1学級 25名  
年中児 1学級 15名  
年少児 1学級 14名 計54名
- ★職員数 園長1名、主任1名、担任3名  
副担任2名、介助員6名 計13名



## 目指す幼児像

だれとでもな  
かよくできる  
子ども

おもいやりと  
やさしさのあ  
る子ども



明るくのび  
のびとした  
子ども

健康な  
子ども

がまん強くな  
んどでもお  
わりまでやり  
とげる子ども

# 主題設定の理由

## 〈本園の現状・課題〉

○特別な支援を要する幼児や外国籍の幼児が年々増加し、幼児への関わりだけでなく、保護者支援に至るまで、綿密な計画や情報共有が不可欠となっている。

○3年保育、預かり保育開始などにより、様々な職員の勤務形態が変化し、職員同士の情報の交換や共有、園内研修のための時間の確保が一層難しくなっている。

○新型コロナウイルス感染症対策を行っているため、クラス間の実態把握や教師同士が互いを知ることが例年よりも難しくなっている。

## 〈本園の強み〉

○保護者アンケートでも評価されている、職員間の協調性の良  
さ

# 主題設定の理由

〈本園の強みを生かして…〉

○幼児の育ちを支える、あらゆる人的環境に着目。質の高い保育を提供するためのチーム保育の在り方。

○限られた時間の中での、効率的な情報共有。

○全職員で目指す幼児像を共有し、目の前の幼児が遊びに没頭する中で育まれる「学びの芽生え」をみとり、就学後の「自覚的な学び」へのつながりを意識した教師の援助と環境構成。

以上の内容について、2年間で実践・研究を進めることにした。

## 研究主題

幼児の思いを捉え、学びの芽生えを育む保育の在り方  
～チーム保育の充実と効率的な情報共有の実践から～

# 研究のねらい

- (1) 幼児を取り巻く全ての人的資源（職員・保護者・関係機関等）が協力して幼児を支えることによる、教育力の向上、幼児の育ちについて実践、究明する。
- (2) 限られた時間の中での効率的な情報共有や、質の高いチーム保育の展開につながる園内研修の在り方について実践する。
- (3) 学びの芽生えを促すための教師の関わりと環境構成について探究し、就学後の自覚的な学びとのつながりを究明する。

## 研究の仮説

- (1) 保護者や、幼児が利用する療育施設等の関係機関全てと協力体制（チーム）を構築し、情報共有、連携を通して信頼関係を築くことができれば、幼児の心が安定し、主体的に生活を進め、遊びこむ姿が見られるようになるだろう。
- (2) 職員一人一人の記録の掲示の仕方や、活用の仕方を工夫することで効率的に情報共有ができ、さらに計画的に園内研修を実施することにより、幼児の学びの見取り方や学びを育むための教師の援助についての理解が深まり、チームの教育力が高まるだろう。
- (3) 幼児の思いや興味を捉え、適切な環境構成や援助を行うことで、幼児は一層夢中になって遊び、学びの芽生えが育まれていくだろう。



# 研究の流れ

## 1年次

- 『チーム保育』の意義について共通理解  
→幼児の育ちを支えるチームの抽出
- 学年の枠を越えた保育環境の構成と、保育実践
- 計画的な学級、学年会
- 関係機関や専門家との連携と実践
- 対話と協働を重ねる園内研修の実施

# 研究の流れ

## 2年次

- 1年次に構築したチーム力を保育の中でどのように活かしていくか
  - 全職員で『目指す幼児の姿』を共有し、学びの芽生えを見取り、就学後の自覚的学びへのつながりを意識した援助や環境構成を探る
- 付箋を活用した全職員による情報共有
- 学びの芽生えに着目した園内研修
- 就学前の学び（学びの芽生え）と就学後の学び（自覚的な学び）のつながりの究明



## 学びの芽生えとは...

学ぶということを意識しているわけではないが、夢中になって遊ぶ中で様々なことを学んでいくこと



「遊び」の中にある「学び」

ベネッセ 「これからの幼児教育」より

## ◎ 「遊び」の中にある「学び」を捉える視点

### 興味の広がり

いろいろなものに興味をもち、おもしろさを感じる

### 自己調整する力

集中したり、根気強く取り組んだり、見通しをもったりする力

### 気付き

遊びの中で発見をして、それを周囲に伝えること

# 幼児の育ちを支える人的環境と実践内容

## 〈保護者との協力〉

- ・園全体で子育てに悩みをもつ保護者に丁寧に寄り添う。卒園後も安心して相談できるような信頼関係を築く。

## 〈関係機関との協力〉

- ・園が中心になって保護者、療育機関等と協働して幼児の育ちを支える姿勢を発信し、共通理解を促進する。
- ・園と関係機関が互いに参観し、意見交換を行う。

## 〈職員の資質向上〉

- ・全職員が主体的に参加できるように園内研修を工夫する。（約束事を明示し安心して発言できる環境を保障する、アイスブレイクを活用する等）

## 〈チーム保育の充実①〉

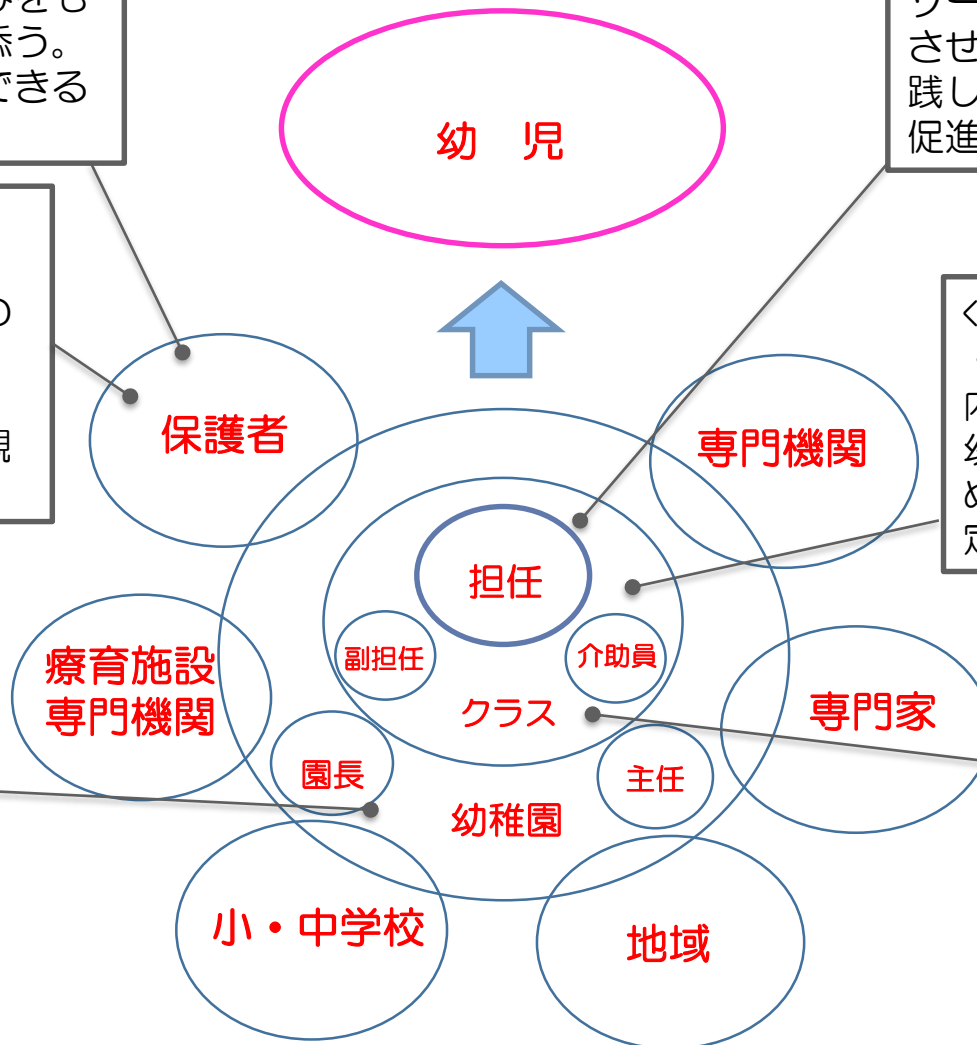
- ・2つの保育スペース（「ワークゾーン」）を活用した遊びを展開させ、多面的な幼児の見取りを実践し、付箋を利用した共通理解を促進する。

## 〈チーム保育の充実②〉

- ・週の学級運営と次週の保育内容の確認や、配慮を要する幼児などについて話し合うための定期的な学年、学級会を定着させる。

## 〈チーム保育の充実③〉

- ・3年保育を全職員でスタートさせる体制をつくる。（排泄の自立指導等）

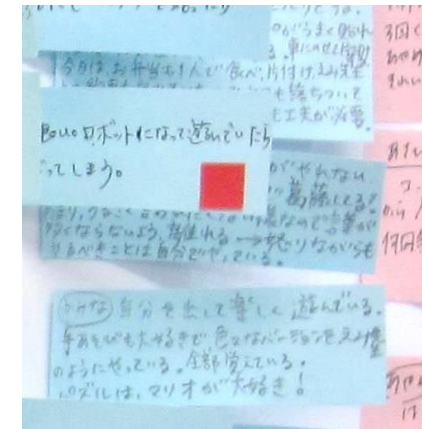


# チーム力向上の実践

## ○ 限られた時間の中での効率的な情報共有



〔資料1〕



〔資料2〕

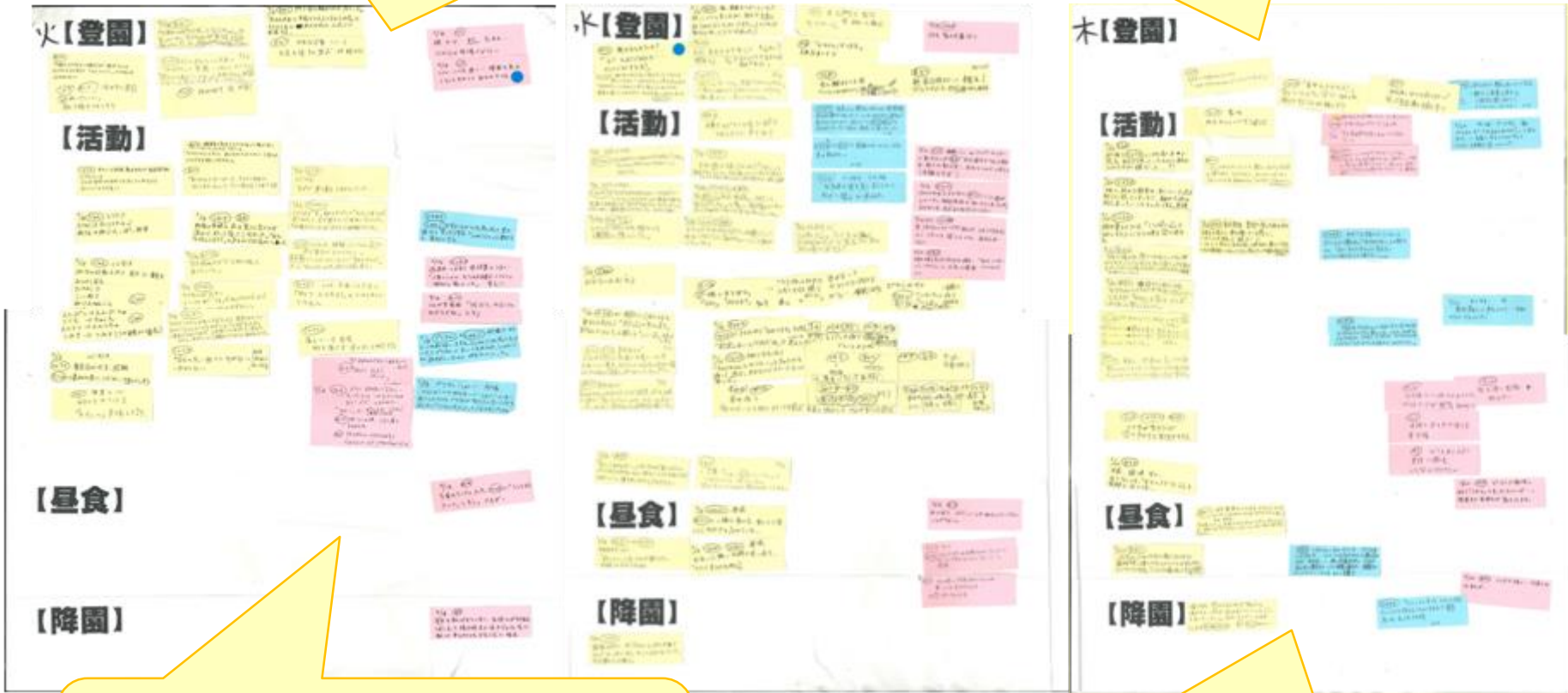
### 【掲示方法の工夫】

- ・職員が目を留めやすい場所に、曜日ごとに1週間分の付箋を貼る場を作ることによって、各々が都合の良い時に付箋を貼り、他の職員の付箋も読めるようにした〔資料1〕  
→互いに読み合うことが、貴重な研修時間となる
- ・付箋にタッグシールを貼り、特別な意味付けをした。(赤いシールはヒヤリハットに関すること〔資料2〕、青いシールはもっと詳しく知りたい事柄、気になった記録)

# 【その他、掲示・活用方法の工夫点】

クラスによって付箋を色分け

書いた付箋に自分の意見を書き足して意思疎通を図る



付箋をそのまま保管し、自分の記録として積み上げられる

付箋を貼り合わせただけで事例にもなる。事例検討会の資料に利用



## ○ 定期的な学級、学年会

行事や出張などで毎週の  
時間の確保が大変…



まずは実践！継続させることで  
「必ずやるもの」という意識、  
そして定着！

毎週木曜日…全担任による週案立案の話合い  
毎週金曜日…学級会





# ○ 全職員が主体的に参加し、対話と協働を重ねる 園内研修

誰もが安心して研修に臨むために

...『研修の約束事』の設定

## 研修の約束事

- ① 批判しない
- ② 誰かの発言中は、内容に同意するかどうかは関係なく必ずうなずきながら聞く
- ③ 質より量！とにかくたくさん発言するのが◎♪

# 誰もが安心して研修に臨めるために …研修前にアイスブレイク

※5分程度で終わられるものを実施



ジェスチャーゲームの様子

〔実際に行ったアイスブレイク〕

何でもバスケット  
ほめほめシャワー  
ジェスチャーゲーム  
はあっというゲーム  
連続あやとり  
お気に入りのショップ紹介  
など

## 様々な研修形態

- ・・・KJ法、ワールドカフェ、保育の悩みの語り合い、動画研修、保育公開など

職員全員で保育を参観し、  
学びの芽生えを見取る



自分の気付かなかった、幼児の様々な姿を把握



学びの芽生えを促すための援助、環境構成をみんな  
で考え、実践していく

# ○ 学びの芽生えと、就学後の学びへのつながりを確認

- ①小学校3校にて、本園職員が1学年1学期の授業を参観し、幼児期に育んできた学びの芽生えが、就学後の生活の中でどのように活かされているかを見取った。（表1）

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	小学校生活の中で、幼稚園生活の学びとのつながりが見られた姿
健康	<ul style="list-style-type: none"><li>・中休み後の手洗い、体育の前の着替えの始末</li><li>・授業が始まる前の着席、電子黒板のタイマーや時計を見ながら進める姿</li></ul>
自立心・言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"><li>・分からないことを教師に伝え、助けを求める姿</li><li>・教師の質問に対して、自分なりの言葉で発表する姿</li></ul>
協同性	<ul style="list-style-type: none"><li>・友達と協力し、分担しながら片付けを進める姿</li><li>・グループで話し合い、みんなで1つの答えを出す姿</li><li>・問題作りを投げかけられると、隣の友達とすぐに向かい合い、活動を始める姿</li></ul>

〔(表1)本園職員が小学校を参観し、学びのつながりをみとった姿(一部抜粋)〕

# ○ 学びの芽生えと、就学後の学びへのつながりを確認

②園児の好きな遊びの様子を、小学校、保育園の職員が参観し、感想と保育についてのアンケートをとった。（写真2、表2）

・自分の言葉で相手に伝えること、話し手のほうに耳を傾けよく聞くこと、自己選択・自己決定の場があることなど、とても丁寧に指導していた。1年生でも同じように指導することで、大切なこと。これは、とても個人差があり、就学前の経験値も大いに関わることだと感じた。

・見通しをもち、(時間の流れ、次に何をやるのか)活動することも、学習の区切りや気持ちの切り替えをするために大切である。幼稚園から小学校への学びのつながりの大切さを再確認した。 ほか



〔表2 保育を参観した小学校教諭からのアンケート回答(一部抜粋)〕

〔写真2 令和3年度保育参観の様子〕

# ○ 学びの芽生えと、就学後の学びへのつながりを確認

③小学校教諭と一緒に、幼稚園で3～5歳が好きな遊びを楽しむ姿の動画を視聴し、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」の視点から、小学校就学後の姿へとつながる幼児期の学びを読み取り、協議を行った。

- ・遊びに必要な教材を友達と手をつないで職員室に取りに行く姿は、小学校低学年が係活動で職員室に手紙を取りに来る姿と重なった。
- ・3歳から4歳、5歳と動画を見てみると、遊び方が1人、2人、3人、と関わる友達の数に変化していて、協同性の育ちを感じた。
- ・自分で気付いたこと、伝えたい思いを幼稚園児は言葉で活発に表現している。言葉でのやりとりが、協同的な活動には必要な大切な要素である。  
ほか

〔協議の中で出てきた、小学校教諭からの感想(一部抜粋)〕



〔写真3 好きな遊びの動画を小学校教諭と一緒に視聴する様子〕



# 学びの芽生えを育む実践事例



4歳児5月

**混ぜたら何色になるのかな！？**

～園庭の自然物を使って色水遊びをする中で～

# 4歳児5月

- 園庭の草花の種探しをしているうちに、咲いている花へと興味に移り、花でジュースを作りたいという声があがった。



お水の色が変わった！



これは何色になるかな？

草だったらどうなるかな...



もっと色が出るかも...  
がんばってみよう

## 【教師の援助】

- ・ 昨年の経験を一緒に思い出させながら、教師も一緒に楽しむ
- ・ 一緒にじっくりと色水作りを楽しみながら、友達同士関わり合うきっかけづくりをしたりいろいろな植物で試してみようという態度をモデルとなって見せたりしていく。

## 【環境構成】



遊びの様子を掲示  
→ 周りの幼児の刺激に



継続して遊ぶための日陰に素材や  
用具を取り出しやすいように整える



# 4歳児5月

- 園庭の草花の種探しをしているうちに、咲いている花へと興味に移り、花でジュースを作りたいという声があがった。



並べてお店に  
しよう！

年少さんもよん  
であげよう



いらっしゃいませ！

ぶどうジュースをど  
うぞ！

## 【教師の援助】

- 遊びの発展具合を見て、お店の人やお客の机、椅子、として使えるような物を目につくところに準備しておく。

## 【環境構成】

- 活動の最後の始末まで、自分たちで行えるように、雑巾や花がらを入れるゴミ箱などを準備。
- さらにお店屋さんのイメージを実現していけるよう、ペン、画用紙なども準備しておく。

# 考察

学びの芽生えの  
出発点

〔幼児の興味・関心〕  
種とりから、草花へ

見通しをもった  
環境構成・援助

遊び・学びの  
広がりと深まり

植物から色のでる不思議さ、喜び  
いろいろな植物で試したい  
初めての用具との出会い

ジュース作り・お店屋さん  
なりきって友達とやり取りを楽しむ

## 考察

- 幼児の興味、関心の芽生えをきっかけに、遊びが広がり、様々な用具、草花、友達と触れ合う経験へと学びが広がっていった。活動の展開を見通した教師の適切な環境構成によって、さらに遊びは深まっていった。
- 一人一人が安心と自信をもって遊んでいる頃合いを見計らって自分たちで必要なものの場所が分かり、すぐに取り出せる環境、繰り返し試すことを可能にする十分な量の素材を準備することで、幼児の主體的な遊びへと展開させることができた。

# 学びの芽生えを育む実践事例

5歳児6月 **スーパーがオープンしますよ！**  
～イメージを共有し、活発な言葉のやり取りの中で～



# 5歳児5月

- 3年保育5歳児の5月。2、3人の気の合うグループでそれぞれにアイスやジュースを作って遊んでいたが、「合体させよう！」という声があがり、大きなグループの遊びとなった。

①  
お店の人はみんなエプロンをつけているよ

②  
お店を合体したらスーパーになるね！

③  
スーパーに行ったことがないから行ってみたいな

④  
スーパーにはカゴがあるよ

⑤  
天井に看板があるよね



## 【教師の援助】

- ・仲間と同じ目的をもち、活動の見通しをもって遊びが進められるよう、必要な物を紙に書くことを提案する。
- ・互いに思いや考えを伝えたり聞いたりしながら一緒に取り組む楽しさを味わえるように、みんなの顔が見えるような形に座るよう促す。

## 【環境構成】

- ・存分に意見を出し合える、場と時間を確保する。
- ・できあがった商品が見えるよう、物の配置を工夫する。
- ・イメージを実現するための、豊富な種類、量の素材を準備する。

# 5歳児5月

順番にしようよ

レジの人が多すぎ！

今日は我慢してカゴを  
戻す人になるね

袋に入れる人、バーコード  
やる人とかにもなれば  
いいんじゃない？



## 【教師の援助】

- ・幼児同士の言葉のやりとりを見守り、自分たちで問題を解決しようとする姿や、考えた遊び方を認めていく。
- ・次の日の目的を全員がもてるように丁寧に振り返りの時間をもつ。

## 【環境構成】

- ・継続的に遊びが進められるよう、遊びの発展に合わせて活動しやすい環境へと再構成していく。

# 考察

学びの芽生えの出発点

〔幼児の興味・関心〕

小グループで楽しんでいたごっこ遊びを合体して、さらに楽しい遊びにしたい

見通しをもった  
環境構成・援助



本物と同じようなスーパーを作るために思考する  
本物のスーパーへの好奇心  
知っていることを仲間に伝え、共有する楽しさ

幼児同士の言葉の  
やり取りを見守る



遊びを進める中で、問題に気付き、解決するために  
意見を出し、さらに楽しく遊ぶために役割を分担したり  
我慢したり、自己調整しながら進める

遊び・学びの  
広がりと深まり

## 考察

- 幼児たちのイメージの広がりと共に、遊びが広がって  
いくような空間、材料、道具などの環境を教師が整えて  
いくことで、家庭では経験できない、集団での遊びを存分  
に楽しめることにつながっている。
- 幼児たちの遊びの発展とともに、随時環境を再構成して  
いったことで、こんな風にもやりたいという気持ちが高ま  
り、幼児が主体的に遊びを進めて行く姿につながった。



# 研究の成果

- 幼児を取り巻くあらゆる環境がチームとなり、連携を深めることが、幼児の安心につながり、主体的に生活や遊びを楽しむ姿が見られるようになった。

→『学びの芽生え』を育む土壌ができた



# 研究の成果

- ・全幼児の育ちを全員が「自分ごと」として捉え、関わる意識をもつための「見える化」=「付箋の活用」
- ・定期的な学級、学年会の開催



- 限られた時間で情報を共有するのに有効
- 園全体のチームで幼児を育てていくという意識が定着





# 研究の成果

『学びの芽生え』を見つめていく



- 幼児のつぶやき、さりげない行動の中の学びに目を向ける意識が浸透し、幼児の遊びが広がり、その中で学びが深まっていくことにつながった。
- 『幼児期の終わりまでに育てたい姿』との関連が見えてきた。幼稚園教諭と小学校教諭の相互の参観により、学びの芽生えが小学校生活を送るための土台になっていることも、明らかになった。

# 研究の成果

小学校教諭と一緒に、学びの芽生えを見取り、協議する



- 普段当たり前に行っていることが小学校生活とも結び付いていたことを知った。
- 園内の研修では話題に上がらなかった幼児の育ちについて見つめ直すきっかけになった。
- 小学校教諭と幼稚園教諭の見取りに大きな差異はなく、幼児期から就学後への育ちや学びのつながりについて互いに確認し合うことができた。

## 今後の課題

- 就学時のスムーズな接続のため、教師同士が幼稚園での学びの芽生えと小学校の自覚的な学びについて、互いに理解を深めるための研修を継続していく。
- 各機関との連携において、幼児の発達を促すための具体的な支援方法について一緒に考え、実践をしていくRPDCAサイクルを確立させながら幼児の成長を支えていく。
- 更なる効率的な情報共有や、職員研修、幼児の学びの芽生えを育む手立てとなるように、積極的なICTの活用を進めていく。